

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)
事業期間を通じた評価

国立大学法人北海道大学 学長 殿

国立大学改革強化推進補助金に関する検討会

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の事業期間を通じた評価について、検討会における審査の結果を踏まえ、下記のとおり評価結果をお示しします。
あわせて、本検討会の所見についても別紙のとおりお示しします。

記

A	当初の構想どおりの取組が行われ成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。
---	--

国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)の
事業期間を通じた評価

国立大学法人 北海道大学

(検討会の所見)

- 経済界とのコラボで社会実装を先導する結果を出している。KPI 未達項目もあるが、項目達成をする努力は必要だ。
- IR データに基づいたアンビシャス教員の採用や、地域の自治体との連携などは評価できる。ただし、これらの効果はまだ十分に出てきておらず、KPI 達成が必ずしも十分とは言えないのは残念である。事業終了後も、これらの取り組みを継続、発展させていくことを期待したい。
- KPI が目標を十分達成したとは言い難い。経営改革構想の中で、アンビシャステニュアトラック制度、並びにアンビシャス教員の優れた成果は進展しているが、その他については更なる進展を期待したい。優れた BI ツールを用いて見える化は出来るようになっており、分析をスタートさせていることから、今後も引き続き、経営改革構想の実現に向けて改革を継続していくことを期待している。
- 実績のある極めて精緻な IR 分析に基づく大学経営構想であり、当初の計画通り順調に進捗していると思われる。
北大の力量から見れば KPI の目標値はやや低めの印象があるが、コロナ禍の下でも概ね達成されている。本事業終了後には、調書にも書かれているように、世界を見据えた地域密着型基幹総合大学を実現してほしい。
- 学長の強いリーダーシップが期待できない時期にスタートした「IR データをエビデンスとするシェアド・ガバナンス」により大学改革を進めるという斬新な手法であるが、エビデンスに基づくデータ駆動型の大学経営として、定着し発展を続けている。結果として、「学長のリーダーシップ」に対する新たな視点を顕在化させ、広く大学の構成員の理解も得ながら、科学的な大学改革が着実に進められている。KPI に関しては、コロナ禍の影響などもあり、達成できていないものが多いが、BI など他大学でも使えるツールも開発されているので、本事業終了後も、このデータ駆動型の改革の成果が期待できる。
- IR データを基盤とするシェアド・ガバナンスが定着しつつある過程にあるようにお見受けする。KPI の中には目標を達成しているものと未達のものが見え、数値が伸び悩んでいるものも見受けられるが、今後はガバナンス改革の学内全体へのさらなる浸透を図るとともに、整備したデータ等の共有ツールに基づく社会連携をさらに進めることが期待される。

次項あり

- 北海道はこれからの我が国の地域連携やデジタル田園都市国家構想の大きな目玉になるであろうと考えている。その中で、北海道大学が仕掛けている university alliance 構想は、知の拠点としての大学がそのビジョンと実行力で自治体や産業界を引っ張っていく可能性を示唆している。